

グループホーム「櫻」第6回運営推進会議議事録

日時 平成19年10月30日(火) 14:00～15:10
場所 グループホーム「櫻」 1F 食堂
出席者 運営推進会議委員関係
逗子市福祉部介護保険課 課長 和田 一 幸
葉桜自治会 副会長・福祉部長 杉浦 強 司
ご家族代表 小野寺 貞 子
(委員4名中代理含む3名出席)
医療法人社団柏信会関係
理事長兼青木病院院長 角野 禎 子
青木病院 総看護師長 武江 友 子
グループホーム「櫻」 管理者 菅谷 弘 子
事務長 遠藤 勝 三

会 議 概 要

1. 開会の辞

管理者は定刻になったので、各委員に本日の出席を謝し角野理事長が所用で多少遅れることを伝え開会を宣した。

管理者は、残念ながら利用者の転倒事故(骨折入院)を惹起したので、本会議で概要を事務長に報告説明させるとし各委員の了承を得た。

事務長は会議次第に基づき報告説明を行った。

2. 議題

(1) 報告事項

ア 運営状況(現況)等について

・入居者の現況

10月1日現在の現況について資料により説明。

8月の会議以降入居者が1名増え各ユニット計18名の満室(1名入院中)で男性2名、女性16名。介護度は1～4で平均年齢86.4歳。

行政別入居者は逗子市15名、葉山町2名東京都1名

・転倒事故の概要

発生年月日 平成19年10月15日(月)午前3時20分(推測)

場 所 Bユニット(1F)10号室内
対 象 者 女性(82歳)要介護1
事故内容 05:30 部屋からの呼び出しに応じ訪室、本人ベット頭部側に腰掛けていた。「転倒して動けない」と本人の言。事の顛末を聞きだし、痛む部位等を確認、左大腿部付近及び左手、指の打ち身を視認、応急処置。
06:00 居室からフロアへ車椅子で移動。移乗の際、かなりの痛みを訴えたが、車椅子では痛みがない様子であった。07:00 早番介護者と共同でトイレ介助、強い痛みを訴える。この際、左大腿部に腫れを確認。
その後の状況 09:00 青木病院を受診、左大腿部頸部骨折、左腕打撲と診断され、翌16日横須賀市市立市民病院へ救急車により搬送入院。本日10月30日青木病院に転院される。
その他 逗子市福祉部介護保険課へ電話通報及び文書による報告。ご家族へは、06:10より数度時間差を設け電話連絡するも不通、08:30繋がる。事故の概要を報告、来所を要請。午前中に来所細部報告する。

・ 月間予定表及び活動状況

月間予定表により概要を説明。

屋外活動に適した季節でもあり、近郷散策やイベント参加など地域に出向くよう計画。

主な活動状況としては、葉山マリーナや逗葉高校の文化祭や敬老会祝賀会での琴・尺八によるコンサート、久里浜コスモス園、近隣のお祭り見物、逗子市文化プラザでのコンサートや落語など、グリーンハウス逗子以外の催し物にも多く参加した。

イ平成19年度外部評価訪問調査日程等について

・ 自己評価表(結果)の確認等

第5回運営推進会議に於いて話し合いされた職員間における自己評価結果のすり合わせについて、10月11日(木)~10月19日(金)の間、当日勤務者を面談方式で各評価結果についてすり合わせを行った。

・ 外部評価の手順及び当日の流れ

実施時期は12月6日(木)に決定した。

外部評価の委託契約日から、かながわ福祉情報コミュニティ及び自社ホームページ掲載までの日程、訪問調査当日の流れについて資料により概要を説明。

(2) 意見交換(質疑応答)

座談会形式で主な発言等の要旨は次のとおりであった。

Q 外部評価結果のペナルティ及び事務量の増大について

A 特にペナルティはないが、事業所の優良マークの指定を受けたか、受けなかったかと言うようなものである。調査結果により利用者の選択の目安となると共に事業所としての自助努力目標にもなる。閉鎖的になり勝ちな施設をこのような形で公表するもので、事務量も自助努力の一環と考えれば特に量の増大とはならない。

Q 監査との違いは

A 県指定の専門業者に委託して(委託料約15万円)実施。結果について公表される。(HP)

Q 許認可はどうなっている。

A 今までは県が実施していたが、昨年4月から逗子市が認可指導。

その他、GHの今後の課題として看取りとその介護報酬等について、また3年に1度の割りで実施される実態調査(11月中旬予定)に対する協力依頼、GHにおける運営推進会議の実施要領について(今後は各期に1回・検討中)

4 閉会の辞

その他特に問題発言等もなく、予定時間も少し過ぎたのを見て管理者は本日の出席に感謝し閉会を宣した。